

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300795		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム 白子マリン		
所在地	鈴鹿市南若松町2番地1		
自己評価作成日	平成 26年 10月 25日	評価結果市町提出日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JievosvoCd=2470300795-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングの窓より見渡せる海の景色が素晴らしい。地域の方々に温かく見守られ行事やお散歩・買い物などを楽しみ、毎日笑顔が見られるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人母体の敷地の一角に移転され3年目である。敷地内には、特別養護老人ホーム・通所介護・居宅介護支援・南部包括支援センターがあり、介護に関して一連の繋がりはある。居室から伊勢湾が一望でき、職員とも話しやすい雰囲気で落ち着いて暮らせる事業所である。職員・利用者の人間関係もよく、温かさ、優しさを感じ、安心して生活出来る場である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	白子マリンの理念をホール内に掲げ人と人とのふれあい、助け助けられる人間関係構築の理念を共有できるよう努めている。	地域の方が伊勢型紙で理念を作成、ホール内に掲示され、各職員が日々援助の中で実践している。パンフレットにも記載し、2か月に1回ある家族会でも説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し皆さんの協力のもと、祭りなどに参加したり子供さんや地域のボランティアの来訪・朝市の買い物に出かけたりして地域と交流している。	自治会に加入しており、地域行事の誘いもあり参加している。行事に参加すると地域の役員の方々が、利用者の面倒を見て下さったり、お祭りの獅子舞が事業所の玄関まで来てくれたりと、地域との交流は出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の朝市での買い物や地域の行事・神社の草取りなどに参加して認知症であっても、穏やかに楽しく暮らしている事を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、民生委員・自治会長・利用者様・家族様代表・地域包括支援センター・職員が参加し、意見を頂きサービス向上につなげている。	年6回開催の会議では、書類による報告より対話を大切にしており、会話が多い。この会議をやる事により、地域のボランティアがたくさん来てくれるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問が毎月あり、実情や取り組みを伝え、アドバイスを受け改善に繋げている。又保険者には運営推進会議報告書を提出し、何か相談事があれば気軽に応じて頂いている。	介護相談員の受け入れをしており、相談員から意見を頂き、ケアの仕方を再確認している。また、包括支援センターが同敷地内にあり、その都度相談でき協力体制は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束廃止委員会に参加し勉強会を行っており、やむを得ず必要な場合が生じても、身体拘束であることを念頭に置き、廃止に取り組んでいる。	見守りが必要な利用者を常時見守りをするようになったが、これも拘束かなと各職員自問自答する時がある。母体の身体拘束廃止委員会に加わり、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連法と虐待について事業所内で勉強会を実施し虐待の具体的内容や対策について再確認を行った。同時に職員会議においてケースを共有し虐待にあたるか等、意見交換し、業務に生かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行った。現在活用の必要な利用者は、いないが職員が理解し、アンテナを高くする事により、必要時活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約時は詳しく説明を行い疑問点等があれば、丁寧に説明して納得を頂いている。又改定などがある時も同様に詳しく説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、家族会を開催し意見や要望を聴き、運営に反映させている。また面会に来られた家族様には日頃の様子をお伝えし、新たなご意見を頂くよう努めている。	施設での利用者の生活を便りや写真を添えて、家族にわかるようにしているので家族からは喜ばれている。マリ通信(第1号)を発行し写真を添えて家族に解かる様にしている。今後外部にも発信したいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見を聴き業務に反映させている。また事業所全体の申し送りノートを活用し意見交換を行っている。	毎月の職員会議で意見交換をしている。職員個々の意見をまとめて理事長に相談に行き、働きやすい環境づくりをしている。研修を受けてきた職員は、すぐに他の職員に通達し、即、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の労働条件で契約し、働き易い勤務条件で調整している。何か心配事があれば代表者が個別に相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加や毎月の事業所内研修を行い現場での実践のアドバイスをし、サービス向上に努めている。またケア内容向上の為に書籍を購入し勉強できる環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との交流はないが、同法人のグループホームやデイサービスとは行事を共に行う等交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で要望や思いを聴いたり、在宅で利用中の事業所等からも様子を聴き取り、継続して不安なく生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のお話に耳を傾け、困りごとや不安がないか聴き取り、要望を聴くなどして信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様との話し合いや心身状況を観察し、ニーズを見極めながら、他入所者様との関係づくりを円滑に行い不安なく過ごせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食を共に摂り、出来る範囲での家事、掃除・洗濯・お盆拭きなど職員と一緒にいき家庭的な雰囲気与生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様への連絡を適宜行い、協力を頂き家族様の支援の大切さをお伝えしており、利用者様の笑顔につながっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの誕生日・敬老の日のプレゼントを贈って頂いた際等、お礼の電話や手紙のお手伝いを通じて関係継続を支援している。その他、子供さんが来て散髪して頂いている方がある。	職員が利用者の入居前の状況を知っていて会話しやすい環境作りに努めている。色紙に家族の思いを記入された物を自室に飾り、関係が途切れないように考えている。趣味のある方が馴染みの場所に出かけて、趣味(カラオケ)を発表出来る様に促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相互の関係性を把握し、行事・レクリエーションなどを通じて孤立せず、仲良くできるような関係性支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了し他へ移られても、個別の事情に応じて面会に訪問、生活の様子を聴くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話やコミュニケーションの中から思いや希望を受け止め、本人の気持ちを尊重するように努めている。	会話の中での本人のうなずき・身振りなどから思いや意向を把握したり、傾聴で本人の好きな事や思いを聞きだし出来るだけ意向に添えるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始段階より入居されてからも、本人・家族様より今までの生活歴等を聴き取り状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に家事やレクリエーション・体操などを行ったり、昼食を食べたりしながら状態の観察を行い、24時間シートや個別連絡ノートを活用して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の課題やケア内容についてモニタリングを行い、サービス担当者会議にてチームで意見を出し合い、介護計画に反映させている。	月1回、職員が利用者一人ひとりをアセスメント、モニタリングを実施し、担当職員を主に介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・24時間シートに記載。特別な場合は個別申し送りノートに記入し、職員で情報を共有し統一した介護の実践を目指し、サービス計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体施設の行事やデイサービスのレクリエーションなどに参加している。リハビリの必要性のある方には医療の訪問リハビリを紹介し利用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや地蔵盆などに出かけ楽しんで頂いている。カラオケ大会には飛び入り出演したり、神社の草取りに参加したりと、利用者の有する力を発揮して参加を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医を決めて頂き定期的な往診・通院により、適切な医療を受けて頂いている。	法人協力医の往診が月1回あり、緊急時の夜間対応もされている。家族が対応できなければ、事業所がかかりつけ医に連れて行っている。本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、2人が従来のかかりつけ医である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護職は在籍していないが、法人特養の看護師とは何か問題や疑問点がある場合、連絡を取りながら適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より医療機関と密接な関係を保ち入退院の情報を共有している。入院された時には、随時状態の確認に向き、退院後のケアに役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から体調の把握を行い、変化があれば早期の段階で家族に連絡を行い主治医も交えて今後の方針について不安がないよう話し合いを行っている。終末期に向けての方針については、現在検討中となっている。	利用者・家族との話し合いや相談はされており、看取りへの前向きな検討はされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの勉強会は行っており、一部職員は体験済みであるが、今後全職員が落ち着いて活用できるような取り組みが必要と感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し避難訓練など実施している。今後、きめ細かい場面を想定した定期的な訓練に取り組んでいきたい。	防災マニュアルがあり、年2回避難訓練を実施している。また、法人関連施設との協力体制はある。	海岸のすぐ側であり、事業所独自の条件を決めて訓練される事が望まれる。ライフジャケット、防災頭巾等の事業所独自の備蓄保管も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという気持ちで敬意を持って接し、言葉や態度に注意を払っている。	トイレ誘導や日々の援助の中で、言葉がけには注意している。閉じこもりの方にはその人に合わせて見守って、自室に行き声掛け等の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で思いが表出できるような言葉かけを工夫し、自己決定できるように話しかけている。自己表現が出来ない方についてはジェスチャーを交え理解できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて希望を汲み取りながら日々生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、髪留めなどその日の希望を聞いている。定期的に訪問美容を利用し好みの髪形にカットして頂き、着替えの際は職員と一緒に好きな洋服を選び着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週間献立表を食卓に常備し、目で見ても楽しめるメニューになっている。食事中は音楽を流し摂取能力に応じた食事形態を用意している。下膳やお盆拭き等、片づけを共にして頂いている。	食材は本部から配食されているが、盛り付けは施設で行っている。各テーブルに1週間の食事メニューが紙面で置かれ日付の確認や食材の説明をし、楽しく食事が出来る様に工夫されている。また、食器の下膳、テーブル拭き等、職員と一緒に利用者がしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については法人の管理栄養士が計画を立て、適切な栄養摂取ができるよう考慮している。水分については24時間シートを活用して体調管理に生かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状態に応じて声かけ・見守りを行い口腔ケアを実践している。自力でできない方については職員介助で義歯夜間ポリデント介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と、排泄サインを見逃さないように適時声かけ・誘導を行い24時間シートに記入し自立に向け支援している。	オムツ外しを実施し、自立に向けた支援を行っている。また、ポータブルトイレ利用者が、トイレ排泄になるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者様の排泄パターンを把握し、適度な水分摂取と日常の運動に留意して、状態に応じて腹部マッサージを行っており、医師の指示により緩下剤を使用し、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午前中だが、ご希望や状態に応じて時間を変更しており、入浴剤を使い爽快な気分を味わって頂いている。	個浴で対応している。週2回の対応であるが、希望者にはその都度対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のペースで眠って頂いている。日中も居心地の良い場所で休み、夜間眠が覚めてもホールで安心して過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬情報・服薬状況を把握し、状態の変化があれば、主治医に報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで培って来られた能力を活かし、張り合いになるような活動につなげている。また趣味にあったレクリエーションや制作物などで楽しみごとが増えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ないが、天候の良い日の散歩、地域の行事には地域の皆さんの協力のもと参加している。また季節の外出行事やデイサービスのレク参加、家族様とお出かけなど楽しんでいただいている。	事業所周辺の公園、近くで開催される朝市に出かけている。花見などの外出支援も行っている。近くに相撲部屋があり相撲場所がある時には、力士に握手をしてもらって喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族様の了解を得て管理。外出や買い物は可能な限り本人様に支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に年賀状を書いて頂いたり、プレゼントが届いた際など、礼状やお礼の電話をかけ交流できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置し、季節の花や作品を飾ったりして快適な空間づくりを心掛けている。また朝日や夕日・海の景色など楽しんで頂いている。日光のまぶしい時間帯は調整を行っている。	窓から伊勢湾が一望でき、心安らぐ視界である。台所から利用者に目配りが出来る様に工夫されている。フローには全員が座れるソファ・テレビが置かれ、ソファにはエアークッションを置きすわり心地良くされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度、座席は自然に決めておられ、近くの方と会話を楽しまれている。その時の気分で食卓テーブル等でも過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品・写真などを置き、自分の作品やバースデーカード等を飾り、心地よく過ごせるよう配慮している。	家族との思い出の写真が自室に飾られ、落ち着いて生活されるように支援されている。家族からの色紙の内容には絆が感じられる。本人の都合で家具を置き片づけを一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、利用者様の出来る事を探し、自立した生活が出来るよう配慮している。		